

原子力人材育成関係者協議会報告書
 —ネットワーク化、ハブ化、国際化—
 (平成 22 年 4 月)

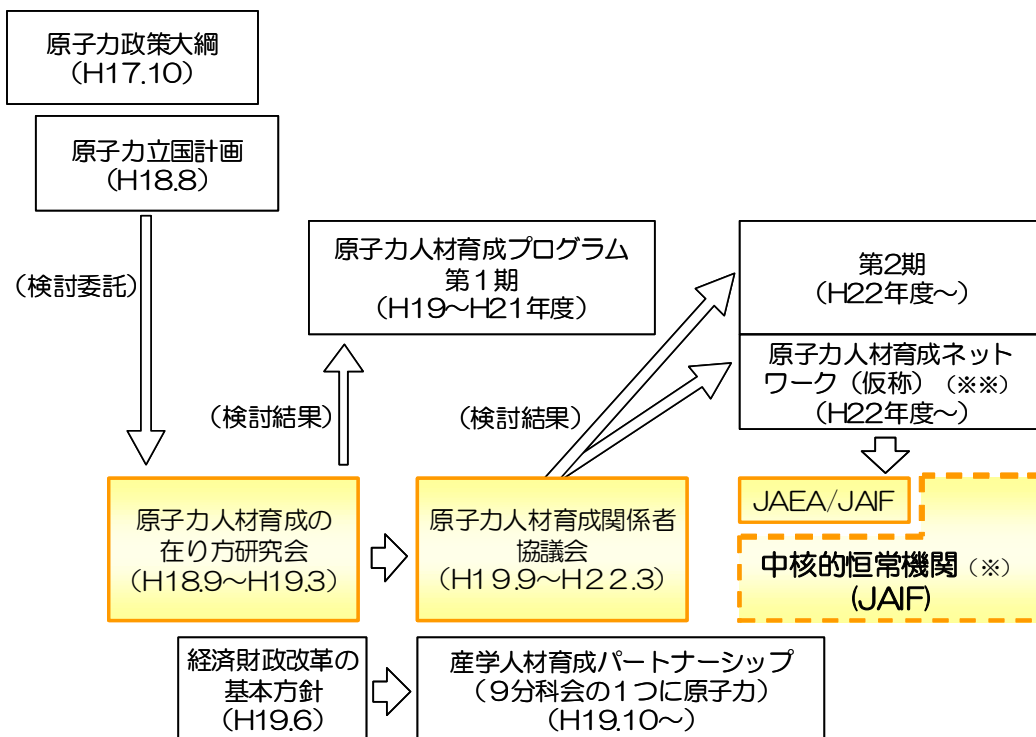
平成 22 年 5 月 24 日
 (社) 日本原子力産業協会

報告書の概要

産官学からなる「原子力人材育成関係者協議会」(座長:服部拓也 当協会理事長)は、原子力人材育成の中長期的課題を抽出し対応を検討するため議論を重ねてきましたが、この度、昨今の世界的な原子力回帰や原子力産業のグローバル展開等の情勢変化を踏まえ、これまでの議論を総括し、原子力人材育成の進め方について「ネットワーク化、ハブ化、国際化」をキーワードとする報告書をまとめ、次の提言を行いました。

- ◆ 「ネットワーク化」とは、教育設備、教材、教える人材等の資源に限られるなかで日本として人材育成の効果や効率を高めるため、既存の人材育成活動を尊重しつつ、それらのネットワーク化(連携協力)を進める提言です。
- ◆ 「ハブ化」とは、ネットワーク化を進めるため、その中心となって人材育成活動を調整、推進するハブ(中核的恒常機関)の設立を進める提言です。
- ◆ 「国際化」とは、原子力市場の拡大、国際機関活動への関心や期待の高まりのなかで、国際的に活躍できる人材の育成、近隣諸国の人材育成支援、IAEA(国際原子力機関)などの国際機関への貢献やその活用を進める提言です。

原子力人材育成検討の全体の流れ



原子力人材育成関係者協議会報告書（平成22年4月）の提言

【人材育成のネットワーク化、ハブ化の提言】

1. 人材育成活動の機能に応じたネットワーク化やその中心となってコーディネート、コントロールするハブ設立の推進
2. 原子力人材育成を戦略的に進めるための中核的恒常機関（※）の設立
3. 我が国の原子力人材育成の体系化と可視化

【国際化対応の提言】

4. 国際人材の養成
5. 原子力新規導入国への国際展開に対応する人材育成体制の整備

〔既存の人材育成の取組の継続と強化の提言〕

6. 理系、特に工学系への進学者を増やすための初等中等教育への取組の強化
7. 原子力の必要性、安全性等の正確な知識の教育、伝達
8. 原子力の技術、研究、産業等の魅力、将来性を社会、特に若い世代に伝達し、学生の進路選択に際し原子力への志向性を向上
9. 原子力専門教育の体系再構築と充実強化
10. 原子力分野の技術継承の仕組みの確立

本報告書のとりまとめにより、原子力人材育成関係者協議会の活動は終了致しますが、その活動は今後新たに当協会内に設置を検討している中核的恒常機関に引き継がれる予定であり、人材採用、就職等に関する基礎的定量データの収集を継続し、定期的に公表していきます。

当協会は本報告書の提言をふまえ、（独）日本原子力研究開発機構（JAEA）と協力して、大学、研究機関、産業界等における人材育成の現状調査を行うとともに、産官学関係者の支援を得ながら、ネットワーク化に向けて準備を進めているところです。

これと並行して、今年度から3府省（内閣府（原子力委員会）、文部科学省、経済産業省）主宰により、高等教育機関や研究機関等の原子力専門教育ネットワーク（連携）の強化を目的とする「原子力人材育成ネットワーク（仮称）」（※※）事業がスタートする予定であり、計画の実施にあたっては、当協会はJAEAに積極的に協力して参る所存です。

以上